

# 根堀台

第3号



由利中学校 学校便り  
平成三十年四月二十四日(火)

発行者 校長

## 春季大会 準優勝 第3位

## ソフト部 サッカー部 祝 全県大会出場

四月二十二日(土)～二十三日(日)に行われた本荘由利春季大会において、本荘北・由利合同チームのソフトボール部が準優勝、サッカー部が三位となり春季全県大会出場を決めました。ソフトボール部は、新人戦においては、本荘北・矢島・由利の合同チームで地区優勝を果たしています。矢島中が単独チームでの出場のため、本荘北中と十人での参加となりました。決勝戦では、惜しくも敗退しましたが、本校生徒三名の活躍もあり全県大会の切符を得ることができました。また、サッカー部の県大会出場は、ほぼ五年ぶりということでもこれもサッカー部にとっては快挙です。本荘東戦の終了間際に本校ディフェンダーが負傷し、準決勝は敗退し、三位決定戦にまわりまし

た。その象潟戦では、怒濤のような攻撃を全員でし、延長戦までもつれ、最後にはPK戦となりました。そのPK戦を四対二で勝利しました。閉会式では、負傷して、右足をギプスした○○○○さんが、キャプテンと共に賞状を代表で授与されました。感動で涙の授賞式となりました。全県大会に出場するソフト部、サッカー部は、本荘由利の代表として更に上を目指してほしいものです。

他の部も十分に力を発揮してくれました。今までの公式戦ではあまり勝てなかったバレー部も代表決定戦まで進出しております。すし、野球部もタイブレークの末に本荘北中に勝利するなど、総体に向けて楽しみになってきました。詳しい結果は、学校後援会報をご覧ください。

### 目指す生徒像 「夢あきらめない生徒」

二十六日(木)は、PTAです。事前に学校経営の重点と施策をお知らせして、全体会での時間を短縮をしたいと思しますので一読願います。

学校経営の重点と施策  
(一) 確かな学力の育成  
・授業改善による分かる・できる・楽しい授業づくり

① 生徒指導の三機能を生かした授業づくりを通して、「なりたい自分」をしっかりと学習に取り組めるよう、学習意欲の向上を図る。

② 学習課題の吟味や課題解決につながる学習活動の展開、個に応じた細やかな指導や支援を工夫し、一人一人に基礎・基本の確実な定着を図る。

③ 「なりたい自分」というめあてをもち、課題解決的な学習の学び方を身に付けさせ、学び合いの充実を図り、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びの推進に努める。

④ 「より質の高い『問い』を発する子ども」の育成を目指し、読む力・聞く力・話す力・書く力を伸ばす指導方法の工夫と場の設定を行う。

⑤ 授業と家庭学習をリンクさせることで、次の学びに生かし、主体的に学ぶ姿勢を育てる。

⑥ 外国語教育をベースにして個々の学習意欲の喚起を全教科・領域に広げるようにする。

⑦ 市総合学力調査の分析による、個々の生徒への確実な支援を行う。

(二) 豊かな心の育成  
思いやりの心と豊かな感性を育成する教育活動の推進

① 明るく心のこもった「立ち止まりあいさつ」や返事、相手や場に応じた言

葉遣いや態度の育成を通して人間関係づくりに努め、思いやりの心を育てる。

②道徳の時間の指導を充実させると共に、全教育活動を通して道徳性の育成を図る。来年から道徳が教科になり「特別の教科道徳」になります。

③学級・学年・異学年交流などを通して、集団の中で互いにかかわる力や仲間意識を高める。

④一人一人のよさや可能性を発揮できる行事・集会活動を工夫し、主体的な態度を育てる。

⑤「ふるさと由利」の豊かさに触れる機会、自然や本物にふれ合う活動やボランティア活動の場と機会の設定や読書活動を通して豊かな感性を育てる。

⑥全校体制で安全で安心な学校づくりに取り組み、愛校心の醸成に努める。

(三)たくましく生きる力の育成  
～キャリア教育の推進と健康・安全な

生活の充実

①教育活動全体を通じたキャリア教育の充実により、自己理解の深化と学年に応じた自分の将来の目標である「なりたい自分」に向かおうとする意識を育む。

②地域に根ざした心に残る体験活動を通して、「ふるさと由利」に生まれた誇りと自己理解に基づいたキャリアプランニング能力の育成を図る。  
～キャリアプランニング能力とは～

自分のよさや個性をふまえて将来の自分を思い描き、それを実現するための見通しをもち、方法を考え、実行する能力です。

③「無言清掃」やボランティア活動等、生徒の主体的な活動の充実に努める。

④体育的行事や部活動を通して体力づくりに努めると共に、食育に対する意識の高揚を図る。

⑤自分の命を自分で守る実践的な態度の育成と、

地域と連携した安全指導の徹底を図る。

⑥全校生徒が認知症サポーターとして活動できるように、認定講座を受講させ地域貢献できる生徒の育成。

(四)よりよい人間関係の醸成  
～生徒指導の三機能を生かした集団づくり～

①一人一人が認められ、学習集団として自己目標の実現を目指して高まり合う学級づくりを行う。

②「生徒に寄り添う」授業や諸活動を通して、「よりよい人間関係」を築きながら、自己有用感を感じ得ることができる場や機会を意図的・計画的に設定し、自尊心を醸成する。

③安全で安心できる学習環境で生活できるようにして、いじめのない学校づくりと教育相談の充実を図る。

④家庭や地域、関係機関などとの連携を図りながら、規範意識の醸成や組織的な指導体制の確立に

図る。

⑤常に子どもよさや頑張りを目を向けながら、生徒理解の充実と適切な指導を行う。

(五)開かれた学校づくり  
～地域との共生を通してたふるさとの明日を担う子ども育成～

①地域の人々と触れ合う活動や地域の施設を積極的に活用した体験活動などを取り入れることで、郷土の自然や風土を愛する心の育成を図る。

②コミュニティスクールとして、学校運営協議会を機能させ、地域の教育力を最大限に学校運営に反映させ地域と行政のさらなる連携を図り、地域に開かれた教育活動への理解と協力を深めるようにする。

③小・中連携を推進して九年間の長いスパンに立った教育活動の工夫と実践を行う。

④保護者・地域の人々・学校運営協議会による学校評価を活用し、学校経営

の改善に生かす。

⑤地域やPTAと連携し推進する。

⑥同窓会組織の活用や地域との「共催」による学校行事の推進を通して、「ふるさと由利」の一員としての誇りを醸成する。

校長の独り言

本校は、コミュニティスクールに指定されています。以前より地域から、多大のご支援をいただいています。でも支援をいただいているばかりはいけません。生徒もまた、地域貢献の必要があります。運動会の朝、早朝河川クリーンアップがあります。是非、全生徒の参加をお願いいたします。地域に子どもがいることが当たり前だった昔です、このような行事に子どもが姿がありませんでした。このままだと、あつという間に限界集落になってしまいます。運動会のアップ感覚でクリーンアップに参加させて下さい。きつと、朝から活気付きますよ。